

Y01a すばる望遠鏡サイトにおけるアウトリーチ活動

林 左絵子, 関口和寛, 布施哲治, 石田キャシー

すばる望遠鏡の山頂サイトにおける一般見学などの広報・教育のための普及活動につき, 報告を行う。遠隔地に作られることの多い天文観測施設のひとつとして, 有効な普及活動のあり方を考察する。

山頂施設の見学プログラムの実施に当たっては, 次の条件を念頭におかなければならない。まず自然条件としては天文観測施設に必須の乾燥した気候, 高山であるための低圧・寒冷・悪天候, 天候の急変など。また社会条件としては, 人工光を避けるべく, 交通の不便な遠隔地にある。山の途中からの急坂が未舗装道路であることも含め, 4輪駆動車による通行を勧めている。このため訪問者は, 自家用なりレンタルなりで4輪駆動車を自分で運転するか, 地元の旅行会社によるサービスを手配しなければならない。

以上のような条件のもとに, インターネット予約・専任職員による案内付き見学を2004年10月より開始した。季節変動があるが月に50人程度が訪れている。まだ様子見ながら年間数100人に達するようなので, すでに特別見学(報道, 行政, 取材, 関係者など)として受け入れている年間約1000人の訪問者数に匹敵する見通しである。地元は島の西側から来るケースが多く, 東側からの個人見学は少ない。ただし特別見学は, 天文関係・教育関係など東側からのケースが多くアレンジされている。

他にテレビ会議システムを利用し, 学校や科学館などの生涯学習施設に対しての遠隔講演などを行っている。山頂作業のタイミングとの兼ね合い, 会場の反応がわからないといった面での工夫が必要である。山麓でのアウトリーチ例としては, 教育に主眼を置いた臼田一佐藤功美子(2004春 Y02a)講演を参照下さい。